
Sharp

綾師邦助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sharp

【コード】

N0098N

【作者名】

綾師邦助

【あらすじ】

甲子園での生きざまを描く。

前に。

<http://ncode.syosetu.com/n9652m/>

これを、間違えて、短編にしまったので

この続きだと思ってください。
ちなみにキャラは、

城北高校

東海林晃佑
ショウジコウスケ

橘悠斗
タチバナユウト

上田竜太
ウエダリュウタ

木村光一
キムラコウイチ

藍川和輝
アイカワカズキ

富王学園

藤村駿
フジムラシユン

谷川祐作という
タニカワユウサク
感じです、

さーて、第2話を投稿します、

お楽しみに

富王の打線

東海林「ふう・・・2回戦で、富王が出てるからって人が多いな、1回戦の2倍くらいか？」

橘「雑念はいい、ただ、おれのミットを見て投げろ」

東海林「へーい」

1番 藤村

藤村「お前のシヨンベンボール打ってやるよ！」

東海林「見て驚け・・・っよ!!」

スパアアアアッ

ボール

東海林「よく見たな。」

会場が唸る。

モニターを見ると、155キロ。

東海林「おっ、更新。」

実況「これは・・・超剛腕投手同士の試合だあああああ!!」

橋（さすがだ、東海林）

藤村「フーン・・・少しはやるようだね。」

シュツ

カキイイイツ

ファール!!

東海林「・・・なかなか」

モニターは154。

シュツ!!

カキイイイイツ

ファール!!

154。

実況「3球連続で150を超えたあああああ!!」

藤村「次で決めてやる！」

東海林「フン。」

シュツ

藤村「きたあああああ！ドマンな・・・」

スカッ

ストラック！！バッターアウト

藤村「こ・・・高速チェンジアップ！」

橘（ナイスだ！かーっ！！やっぱりこいつは神だ！！！！）

2番高清水

高清水「情けないな、藤村」

藤村「あいつの球は気を付ける」

シュツ！

グオオオオオオオ

ストライツ！

高清水「・・・スライダーか。」

シュツ！！

グオオオオオオオツ

高清水「きたっ！スライダー！！！」

コキツ、

ファールボール！！

橋（さすが富王。秋田学園が誰も触れられなかったボールを簡単に当てれるな。

だが・・・鋭く曲がることだけが、東海林の、スライダーじゃない）

シュツ

コキツ

シュツ

コキツ

シュツ

コキツ

シュッ
コキッ

東海林「芯で当てるよ」

橘（そう・・・カットというのは、もともと、ピッチャーのスタミナ削りの為。

しかし、これは逆に、バッターのスタミナ削り。ギリギリ打てる範囲内に投げて

粘らせる、10球以上ねばらせりゃ、ストレートズドンで、あっけなく三振、という事）

高清水「くそっ！タイミングも、来る場所もつかめてるのに、何故前へ飛ばせない？」

12球目。

橘（そろそろ・・・ストレート・・・首を振った？）

東海林「東海林晃佑は、ストレートだけじゃないということも見せたいんでね、

もっとスライダー曲がらせるよ？」

橘（・・・あいつの意見だ。尊重していい。）

高清水「なに宣告してんだ！ナメてんのか？」

東海林「ナメてなんかいない・・・よっ！」

シュツ

スウウウウウウウウウウウウウウウウオオオオオオオオオオオ

スカッ

ストラックバッターアウト！

東海林「っしゅっ！」

実況「粘りましたが、健闘むなしく空振り三振です。」

3番 原田

東海林「ここは・・・ストレートごり押しかな？」

原田「何、言ってるんだ！ナメてんのか？」

東海林「うん。ナメてるね。どうせ打てないで・・・しょー！」

シュツ

スパアアアアアアアアッ!!

ストライツ!

155キロ!

シュツ

スパアアアアアアアアッ!

ストラツク!!

153キロ!

スパアアアアアアアアアアアアアッ!!

ストラツク

155キロ!!

実況「三球三振!そして、三者連続三振です!!!!」

橘「さすがだ!東海林!今日もビリビリ来てるぞ!!」

東海林「あたりまえっ
」

2回表へ

藤村崩壊

4番 東海林

藤村「フン、守備は認めよう・・・だが、打てなきゃ意味ねーんだ
よっー!!」

シュツ

カキイイイイイイイイイイイイ

東海林「おーっ 飛んでったー」

実況「城北、東海林のソロホームランで、1点先制です!!」

1 - 0

藤村「ば・・・バカな!アウトコースいっぱいのあのストレートを
当てるだけで精いっぱいなのに」

なぜあそこまで・・・。」

小泉「おい、藤村」

藤村「あ・・・小泉さん」

小泉「てめえ、富王の無失点記録を打ち崩しやがって、この糞野郎
！！！！」

藤村「え・・・あ・・・？」

小泉有也コイズミユウヤ、普段はおとなしい人で、いつも優しい。

しかし・・・こんなことを言うなんて・・・

藤村「す・・・すいま・・・」

小泉「もう、お前は、いらねえよ、ベンチに引っ込んでな。」

藤村「え・・・でも・・・ピッチャーは・・・？」

小泉「俺がやる。お前は、もうエースでもなんでもねえ！ただの恥さらしだ！」

後ろのゼツケンのエースナンバーを引き取られた。

藤村「あっ・・・」

小泉「フン・・・地獄に落ちな」

実況「どうやら、ピッチャーが代わるようです。小泉です。」

富王監督「・・・小泉の考えだけで、春は優勝した。このままいく

しかない」

藤村「すみません……。富王のエアナンバーを持ってたくせに・
」

富王監督「……………フン」

5番 イチカワシュウイチ
市川修一

修一は、鍛えあげられた体で、甲子園へやってきた。

市川「さあ、こい！」

小泉「……………藤村の恥さらし、これが俺とお前との違いだ！」

シュツ！！

スパアアアアアアアッ

実況「客が総立ちです。そして……………私も……………このバックスク
リーンで驚かない人はいないで

しょう……………」

東海林「あれを見た後じゃ……誰も俺の球なんて驚かないんだろ
うね。」

2回裏

4番 谷川

谷川「お願いします！」

東海林「威勢がいいね……！」

シュツ

東海林「やつべー!!!」

スツポ抜けのど真ん中のスローボール。

谷川「ありがとう………じぎいますっ!!!!!!」

スパキイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイン!
!!!!

実況「これは……甲子園の……甲子園の場外にまで……消
えていった。」

橘「・・・甲子園の・・・場外だと!？」

東海林「マジかよ、おい・・・」

1 - 1

エースの意地

橋「……まあ！落ち込むなって！力みすぎだ！軽くいこうぜ！！」

東海林「……」

橋（やべえな……こいつは強すぎて、打たれた事がない、だから精神的にも……）

東海林（これじゃ……ダメなのは……わかってる……）

5番 池田

池田「こい……こい……こい……」

シュツ！！

橋（アマイ……）

池田「キタ……！！」

カキイイイイイッ！！！！

実況「ショートの頭上抜けたっ！！！！池田は2塁回って……！！スリーベースヒット！」

橘「・・・すっかり、青ざめてるな。審判、タイム」

タイム

東海林「悪い・・・」

橘「落ち着いてないぞ、お前らしくない、アマいスライダーだった。」

東海林「いや・・・ホームランを打たれたあたりから・・・震えが・・・」

橘「こりゃ、ダメだな・・・。監督！」

実況「ここで・・・ピッチャー東海林は、レフトへ、レフトの藍川がピッチャーになります！」

藍原「ここで、背番号10の登板です!!」

シュツ!

スパアアアッ!

6番 長瀬

藍原「行くぞー!!」

シュツ

ボール!

シュツ!

ストライク!

シュツ!

ストライク!

シュツ!

ボール!

シュツ!

ボール!

藍原「うーん……これで……どつだー!」

シュツ！

藍原「しまっ・・・！」

橘（これは・・・スッポ抜けた・・・ユルい・・・スローボール
！！）

カキイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ
イイツ！！！！！！

橘「・・・ふう、一安心。快音はしたけど、浜風にのせられて・・・
浅いフライだ」

実況「犠牲フライには、不十分です・・・おっと！？」

レフト東海林が落とした！！！！」

橘「え！？」

実況「落としたのを確認して、3塁ランナー、ホームイン！！富王
勝ち越し！！」

2 - 1

東海林「・・・ヤベエ・・・、城北の応援すらも・・・敵に・・・」

橘「・・・東海林が・・・」

そのあと、精神的にもヤバい東海林は狙われ・・・

小泉「フンツ！！！」

カキイイイイイイッ

実況「痛烈な当たり！！おーっと！またもや東海林！この回4個目のエラー！」

バッターランナーも帰ってきた！！！！6-1です！！！！

6-1

東海林「すまん・・・すまない・・・クソっ！！クソッ！！」

橘「負ける・・・？ここで・・・？俺ら、最強だろ？最強だろ？最強だろ？」

藍原「ごめん・・・橘・・・」

上田「・・・これは・・・」

木村「・・・なぜだ」

三浦「かける言葉がない・・・」

城北、絶体絶命の・・・6 - 1

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0098n/>

Sharp

2010年10月13日04時51分発行